

東京新聞

若者の声

中学生 鎌田 吉成 14

(東京都文京区)

全力でオンリーワンに

「ナンバーワンにならなくてもいい。もともと特別なオンリーワン」。今では言わずと知れたこのフレーズは、二〇一六年に解散したSMAPの「世界に一つだけの花」の一節である。受験を控えた中学三年生の自分にぴったりの言葉だと思う。

この歌を知ったのは小学校の音楽の授業だった。四年生くらいだったので、歌詞には特に何も感じず、自分のことに置き換えることはしなかった。受験という大きな壁が現れた今だからこそ、合っ

ミラー

いる言葉だと思う。

受験とは自分の限界に挑戦する機会だと思う。僕には得意なことがないので、自分に自信を持ったことがない。そこで、この受験を機に、出し惜しみなく、全力を出し、自分に自信をつけたいのだ。そんな思いの中で「ナンバーワンにならなくてもいい。もともと特別なオンリーワン」という言葉を大切にしていきたいと思った。ただ、僕はこの言葉の意味をそのまま大切にしていきたいわけではない。

この言葉に対する自分なりの考えがある。それは「ナンバーワンを目指さないとオンリーワンにはなれない」ということだ。全力を出せなかった自分に対して、言い訳として「オンリーワン」という言葉を使いたくない。

自分の全力を出しきって限界に挑戦しないと「オンリーワン」にはなれないのではないかと思う。この一年、全力を出し、限界に挑戦していきたい。

そして「オンリーワン」になれたとき「この言葉は自分自身そのものだ」と言えるような、自信をつける一年にしたい。